



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社よみうりランド

コード番号 9671 URL <http://www.yomiuriland.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上村 武志

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経理部担当 (氏名) 久米沢 賢尚 (TEL) 044-966-1134

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績 (平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	15,765	12.3	1,456	△37.3	1,976	△35.0	△252	-
28年3月期第3四半期	14,035	8.2	2,323	36.3	3,039	28.2	2,331	57.7

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 950百万円(△68.6%) 28年3月期第3四半期 3,027百万円(60.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△3.28	-
28年3月期第3四半期	30.17	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	68,742	22,739	33.1
28年3月期	72,335	22,381	30.9

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 22,739百万円 28年3月期 22,381百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	-	2.50	-	3.00	5.50
29年3月期	-	2.50	-	-	-
29年3月期(予想)	-	-	-	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,440	8.9	1,300	△34.5	1,800	△36.9	3,050	53.5	39.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	83,522,024株	28年3月期	83,522,024株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	6,633,850株	28年3月期	6,229,254株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	77,019,803株	28年3月期3Q	77,298,308株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は経済情勢や天候等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気は緩やかに持ち直すものの、一部で伸び悩みがみられました。当社グループの関連する業界に影響を及ぼす個人消費についても、力強さを欠く状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社は設備投資により取得した新施設を新たな成長の基盤へ育てるとともに、既存事業の更なる発展に努めました。

公営競技部門の川崎競馬は、前年同四半期比3日増となる48日開催されました。重賞競走は6月の「関東オークス」や12月の「全日本2歳優駿」のほか、11月に川崎競馬では4年ぶり3回目の開催となるダート競馬の祭典「JBC競走」が開催され、地方競馬の一日総売上金額の記録を更新するなど盛り上がりを見せました。なお、JBC競走開催のために大規模なスタンド改修などを実施いたしました。また、JRAの場外発売施設「ウインズ川崎」での発売は前年同四半期比1日減となる80日実施されました。新たな顧客の獲得を目指し、ファミリー層をターゲットにしたキャンピングカーイベントなど、様々な施策を積極的に開催したところ、平成28年2月にオープンした商業施設「マーケットスクエア川崎イースト」からの利用客をはじめ、多くのお客様で賑わいました。船橋競馬は、前年同四半期比1日増となる40日開催されました。前年度6月にスタートしたナイター競馬「ハートビートナイター」は、本年度は4月からスタートいたしました。5月にはビッグレース「かしわ記念」が開催され、同日には恒例の「おうまフェス2016～親子であそぼ。～」を近隣商業施設と主催し好評を博しました。なお、4月にオープンした複合型場外発売施設「サテライト船橋・オートレース船橋」での発売は267日実施されました。施設内の相互利用はもとより、競輪ファン、オートレースファンが競馬場を訪れるなど相乗効果を発揮いたしております。なお、JRAの場外発売施設「J-PLACE船橋」での発売は前年同様39日実施されました。

ゴルフ部門の東京よみうりカントリークラブは、新規の大口コンペ等を獲得するなどした結果、11月の積雪による影響などがあったものの入場者は前年並みに推移いたしました。12月に開催された「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、賞金王争いなどの話題性もあり、盛り上がりを見せました。また、9月にクラブハウスレストランにて開催した恒例のディナーイベント「丘の上JAZZ2016」は、新たにコース料理をメニューに加え、多くのお客様にお楽しみいただきました。なお、平成29年夏頃の乗用カート使用開始に向けて整備を進めております。よみうりゴルフ倶楽部は、引き続き多様な自主コンペや、積極的な外部営業を実施したものの、11月の積雪による影響などにより入場者は減少いたしました。なお、クラブハウスのレストランにて、遊園地のイベント「ほたるの宵」や「ジュエルミネーション」と連携した恒例のディナーイベントを開催し、好評を博しました。静岡よみうりカントリークラブは、女性をターゲットにしたイベント「レディースゴルフフェスタ2016」などを開催し好評を博しました。また、予約の少ない時期に、ホームページを通じて、積極的に食事付きイベントなどを紹介するなどした結果、入場者は増加いたしました。千葉よみうりカントリークラブは、昼食付き料金などの料金施策が順調に推移したほか、恒例のスクラッチカードイベント「スマイルウィーク」などが好評を博した結果、悪天候による影響があったものの入場者は前年並みに推移いたしました。

遊園地部門の遊園地では、平成28年3月にオープンしたモノづくりが体感できる新遊園地エリア「グッジョバ!!」が引き続き好評を博しております。イベントは、6回目を数えるゴールデンウィークの「全国ご当地大グルメ祭2016」や、松竹芸能プロデュースによるお笑い芸人とアシカのコラボレーションショー「アシカ・笑(しょう)3」、初夏に開催した恒例のほたる観賞イベント「ほたるの宵」などが盛り上がりを見せました。夏は、テレビなどで活躍する人気の芸人が日替わりで登場する笑いの祭典「よみうりランド×よしもと ワイワイ笑フェス」や、食イベント「南国グルメフェスタ」が好評を博したほか、「グッジョバ!!」エリア内に、アメリカ生まれのフローズンヨーグルトショップ「ピンクベリー」を併設したレストラン「グッジョバ!!キッチン」を新たにオープンし、幅広いお客様にご利用いただいております。9月には、タツノコプロがプロデュースするハロウィンイベント「Yomiland Halloween2016」を開催いたしました。新たに、着ぐるみとプロジェクトマッピングが融合したよみうりランドオリジナルのライブショー「飛びだす!マッピング～モンスターからの贈りモノ～」を開催し、多くのお客様で賑わいを見せました。10月には、レストランGood Dayがリニューアルオープンし、世界的照明デザイナー石井幹子氏がよみうりランド向けにデザインしたシャンデリア「JEWELRY JARDIN(ジュエリージャルダン)」を導入いたしました。そして、冬の風物詩であるイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」は、今シーズンも石井幹子氏監修のもと、10月中旬より開幕いたしました。7シーズン目となる今回は、新たに「グッジョバ!!」エリアを知恵をテーマとしたウィズダムエリアとして拡張し、球数は前回より10万球多い、500万球の規模に拡大いたしました。また、ハロウィン期間に行われた着ぐるみとプロジェクトマッピングが融合したイベントはクリスマス版となり、「飛びだす!マッピングII～見習いサンタのラストギフト～」として開催いたしました。なお、ジュエルミネーションの好調を受け、前年に引き続き、最寄り駅の京

王よみうりランド駅に新宿駅発の下り特急・準特急列車の一部が期間限定で臨時停車いたしました。これらの結果、クリスマスには前年同日に達成した今世紀最高の記録を上回る入園者が訪れるなど、入園者は増加いたしました。夏のプールWAIは、清涼飲料水「キリン メッツ」とコラボレートしたびしょ濡れウォーターゲーム「スパーキングメッツ『ポン』&『ダン』」や、7年目を迎える、オリジナルダンスと放水ショーのコラボレーションショー「ダンスブラッシュ!!」、例年人気のおもちゃのアヒルレースなど、エンターテインメントプールとして毎日多数のイベントを開催し、好評を博しました。これらの結果、プールWAIオープン以来最高の入場者数を記録いたしました。温浴施設「丘の湯」は、「グッジョバ!!」オープンの効果により、遊園地から来場するお客様が増えたものの、台風の影響などにより入場者は減少いたしました。なお、丘の湯プラザの中華レストラン「天安」では、遊園地と連携した恒例の「天安ほたるの宵特別ディナー」や「ジュエルミネーション特別メニュー」などを実施したほか、プラザ内のベーカリーや和菓子店においても「ほたる」にちなんだ商品を販売し、好評を博しました。温浴施設「季乃彩（ときのいろどり）」は、花や柑橘類などの替り湯「彩湯」などのイベントが好評を博しました。この結果、台風の影響を受けたものの、入場者は増加いたしました。ゴルフガーデン（練習場）は、台風の影響や、営業日数が減少したことなどにより、入場者は減少いたしました。親子向け屋内遊戯施設「キドキドよみうりランド店」は、春休み期間、シルバーウィーク期間の集客は好調だったものの、夏休み期間については高水準だった前年には及ばなかったことや天候による影響もあり、入場者は減少いたしました。商業施設「グランツリー武蔵小杉」内の「あそびのせかいグランツリー武蔵小杉店」は、ベビー向けイベントや季節ごとのイベントなどが好評を博し、8月の総入場者数が過去最高の記録を達成するなど、入場者は増加いたしました。

以上の結果、総合レジャー事業の売上高は142億5千5百万円（前年同四半期比15.3%増）となりました。

また、不動産事業の売上高は、販売用宅地の分譲が減少したことなどにより10億5千7百万円（同11.6%減）、サポートサービス事業の売上高は、連結内部工事の増加などに伴い27億1千5百万円（同43.7%増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、157億6千5百万円（前年同四半期比12.3%増）、営業利益は、減価償却費が増加したことなどにより14億5千6百万円（同37.3%減）、経常利益は19億7千6百万円（同35.0%減）となりましたが、船橋オートレース場の諸資産の減損損失、撤去費を特別損失に計上したことなどにより2億5千2百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失となりました。

（2）連結業績予想に関する定性的情報

当社の所有する船橋オートレース場の諸資産に関して関係各所と協議を進めて参りました結果、当社において工作物等を収去のうえ、土地所有者に明け渡すことで合意に達しました。これに伴い、当第1四半期連結累計期間に固定資産の減損損失1,356,662千円及び撤去費1,209,495千円を特別損失に計上しております。

なお、通期の業績予想につきましては、おおむね計画通りに業績が推移するものと見込んでいるため、平成28年11月9日発表の数値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は26,624千円増加、税金等調整前四半期純損失は26,624千円減少しております。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,040,722	3,389,565
受取手形及び売掛金	1,341,267	1,022,334
たな卸資産	127,187	154,005
繰延税金資産	256,607	156,473
その他	1,152,010	365,264
貸倒引当金	—	△768
流動資産合計	7,917,794	5,086,875
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	29,542,176	28,246,267
土地	15,587,818	16,387,346
建設仮勘定	1,124,879	114,274
その他(純額)	6,123,419	5,237,455
有形固定資産合計	52,378,293	49,985,342
無形固定資産		
その他	137,203	70,937
無形固定資産合計	137,203	70,937
投資その他の資産		
投資有価証券	11,430,725	13,164,381
繰延税金資産	168,382	184,158
その他	302,769	250,395
投資その他の資産合計	11,901,877	13,598,935
固定資産合計	64,417,374	63,655,215
資産合計	72,335,169	68,742,090

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	577,949	501,867
短期借入金	5,810,000	5,510,000
1年内返済予定の長期借入金	321,000	1,187,496
未払法人税等	908,805	67,511
賞与引当金	131,627	33,157
その他	4,474,317	2,690,390
流動負債合計	12,223,700	9,990,423
固定負債		
長期借入金	10,179,000	9,197,103
繰延税金負債	1,982,846	1,457,216
退職給付に係る負債	549,596	570,814
長期預り金	24,347,889	24,227,631
その他	670,927	559,198
固定負債合計	37,730,261	36,011,963
負債合計	49,953,961	46,002,387
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,053,030	6,053,030
資本剰余金	4,730,631	4,730,631
利益剰余金	9,777,318	9,100,796
自己株式	△2,107,856	△2,275,963
株主資本合計	18,453,123	17,608,495
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,931,470	5,134,608
繰延ヘッジ損益	△3,385	△3,400
その他の包括利益累計額合計	3,928,084	5,131,207
純資産合計	22,381,207	22,739,703
負債純資産合計	72,335,169	68,742,090

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	14,035,642	15,765,133
売上原価	10,275,534	12,776,962
売上総利益	3,760,107	2,988,170
販売費及び一般管理費	1,436,507	1,531,935
営業利益	2,323,600	1,456,235
営業外収益		
受取配当金	192,876	213,896
建設発生土受入金	450,527	298,807
その他	101,769	60,799
営業外収益合計	745,173	573,503
営業外費用		
支払利息	27,360	47,846
その他	2,186	5,012
営業外費用合計	29,546	52,858
経常利益	3,039,226	1,976,879
特別利益		
固定資産売却益	100,966	18,334
和解清算益	396,384	—
その他	3,282	—
特別利益合計	500,634	18,334
特別損失		
固定資産除却損	59,927	1,346,526
災害による損失	—	6,900
減損損失	—	1,356,662
特別損失合計	59,927	2,710,089
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	3,479,933	△714,875
法人税、住民税及び事業税	1,293,436	509,330
法人税等調整額	△145,229	△971,785
法人税等合計	1,148,207	△462,454
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,331,726	△252,421
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,331,726	△252,421

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,331,726	△252,421
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	697,658	1,203,137
繰延ヘッジ損益	△1,695	△14
その他の包括利益合計	695,963	1,203,123
四半期包括利益	3,027,689	950,701
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,027,689	950,701
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,355,853	1,193,034	486,753	14,035,642	—	14,035,642
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,893	2,700	1,403,303	1,409,896	△1,409,896	—
計	12,359,746	1,195,734	1,890,057	15,445,539	△1,409,896	14,035,642
セグメント利益	2,748,864	766,809	111,699	3,627,373	△1,303,773	2,323,600

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,303,773千円には、セグメント間取引消去12,207千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,315,980千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,249,986	1,054,544	460,602	15,765,133	—	15,765,133
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,715	2,700	2,254,881	2,263,296	△2,263,296	—
計	14,255,702	1,057,244	2,715,483	18,028,429	△2,263,296	15,765,133
セグメント利益	1,963,835	708,015	254,066	2,925,918	△1,469,683	1,456,235

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,469,683千円には、セグメント間取引消去△58,530千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,411,153千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「総合レジャー事業」セグメントにおいて、当社の所有する船橋オートレース場の諸資産に関して、工作物等を取去のうえ、土地所有者に明け渡すことで合意に達しました。これに伴い、当第3四半期連結累計期間に固定資産の減損損失1,356,662千円を計上しております。